

[プレスリリース]

スタンダードチャータード銀行、 金融庁の承認受け、初のリテール支店開設へ

今年7月より富裕層向け「プライオリティ・バンキング」を開始

[2005年6月6日、東京] 英金融大手スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、東京支店:東京都千代田区、東京支店CEO:マーク・デヴァダソン、以下SCB)は6月2日、日本におけるリテール(小口金融)業務第1号店開設に関し、金融庁による正式な承認を受けました。このたびの承認により、SCBは日本で125年にわたり築き上げたホールセール(大口金融)業務を基盤に、富裕層向けリテール業務を手がける新たな事業戦略を展開します。リテール第1号支店は、山内智浩を支店長として今年7月5日に千代田区丸の内にて開設し、洗練された環境で差別化されたサービスを求める富裕層を対象に、資産運用サービスを提供する予定です。

このサービス「プライオリティ・バンキング」は、数億円規模の資産を保有する顧客向けのプライベート・バンキング(PB)業務と異なり、預金額2,000万円以上を有する富裕層を対象とした資産運用サービスです。その特徴としては、お客様のニーズを最優先に考えた、担当者つきの金融サービスという点があげられます。

SCBは、すでにアジア26カ国において、富裕層向けにプライオリティ・バンキングサービスを展開してきた実績を有しています。SCBは、香港やシンガポールといった金融先進国と比較し、日本ではリテール業務および資産運用業務の面で発展が出遅れているとの認識から、この分野での本格的参入に踏み切りました。また、多額の個人貯蓄がある反面、その大部分が低金利口座に寝かされたままになっているという日本の現状も、このたびの参入を決定づけた要因です。SCBはアジア市場において、高金利・低手数料に焦点をあてた事業を展開しており、同様の体制を日本にも取り入れることで、短期間のうちに一定の地位を築けるものと見込んでいます。

SCB東京支店CEOのマーク・デヴァダソンは、次のように語っています。「日本では、PBの概念こそ広く知られていますが、その対象には含まれない富裕層の方々も実は多くいらっしゃいます。当行のリサーチによれば、預金額が2,000万円を超える家庭は国内全体の約27%、総預金の6割以上を占めているのです。そのため当行では、通常のリテール業務では得られない新種のサービスを、富裕層にご提供する絶好の機会であると考えています。PB業務を飛行機のファーストクラスに例えるならば、スタンダードチャータードが提供するプライオリティ・バンキングは、ちょうどビジネスクラスにあたります。SCBは、他市場での成功例を日本向けにローカライズして提供することで、対象顧客層にご好評いただけると確信しています」。

東京駅に程近い丸の内エリアに第1号支店を開設することで、関西、東北、中部の各地域に在住する顧客へのサービスの提供も可能になると見込まれます。今後1、2年を目処に、同様のビジネスモデルを採用した新支店を3店舗から5店舗開設する構想です。

お問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行

広報部 部長

パトリン・ベーター ジョンストン(日本語で対応可能です)

Tel: 03-5511-1361

Fax: 03-5511-9330

E-mail: patricia.bader_johnston@jp.standardchartered.com

世界におけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、アジア・太平洋地域、南アジア、中近東、アフリカ、英国、南北アメリカの50カ国以上で950の拠点を有する、世界でもっとも国際的な銀行の一つです。3万8000人の従業員を擁しており、その国籍は80にのぼります。

スタンダードチャータード銀行は、リテール(小口金融)およびホールセール(大口金融)業務の両面でサービスを提供しています。リテール銀行業務では、個人顧客および中小企業に向けてクレジットカード、個人ローン、住宅ローン、預金預かり、資産運用のサービスを展開しています。また、ホールセール業務では、企業および団体に対する、貿易金融、金庫管理、貸し付け、証券サービス、為替手当て、債権資本市場、コーポレートファイナンスを手がけています。

スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100構成銘柄の上位25社の一つに数えられています。

世界におけるSCBのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての出張所を開設した1880年にさかのぼり、今年の11月1日には開設125周年を迎えます。東京支店は山王パークタワー(千代田区)にあり、現在160人を擁しています。うち日本人社員は94%にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供しながら成長を続けています。

スタンダードチャータード銀行は過去1年間、Permatta Bank(インドネシア)、韓国第一銀行(韓国)、ANZのアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit(香港)等の一連の買収戦略と、自身の自律成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。また、中国では150年にわたり事業発展を進めてきました。事業拠点を香港におき、珠江デルタでの成長を続ける一方で、その勢力をさらに北に拡張すべく、中国のネットワーク(現在7支店)を通じて地銀現地の銀行との提携の機会も探求しています。

スタンダードチャータード銀行は、視力回復およびHIV/AIDS教育の分野で地域組織を支援するCSRプログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。

日本におけるSCBのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/

日本におけるSCBのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com/jp/index.html



スタンダードチャータード銀行は“Seeing is Believing”プログラムを推進しており、
2年間で100万人の視力回復の実現を目指しています